

会議録要旨

会議名	令和5年度 第1回藤沢市下水道運営審議会	
開催日時	2023年（令和5年）4月25日（月）午前9時58分～午前11時17分	
開催場所	本庁舎5-1、5-2会議室	傍聴者数
		0人
出席者	会長	杉渕 武
	委員	稲田 圭祐 井上 美鈴 大内 禎 齋藤 力良 小林 敦子 船橋 國比古 宮治 八千代 橋本 修 深澤 潤子 矢出 乃大
	事務局	近藤下水道部長 [下水道総務課] 張ヶ谷参事・指旗主幹・草柳主幹・鈴木主幹・工藤補佐・小松補佐 鈴木補佐・外山専任補佐・吉原専任上級主査・東嵩西主任・中澤 [下水道管路課] 中村課長・山口補佐・矢口補佐 [下水道施設課] 濱野参事・竹内辻堂浄化センター長・佐藤大清水浄化センター長 田中補佐・鷺塚補佐・斉藤補佐・山村補佐
議題及び公開・非公開の別	1 令和5年度藤沢市下水道事業運営について その他 （すべて公開）	
非公開の理由		
審議等の概要	<p>《議題》</p> <p>1 令和5年度藤沢市下水道事業運営について 資料1～3に基づき説明。</p> <p>【質疑】</p> <p>(1) 資料3施策7事業9のマンホールトイレシステムの設置について、計画期間の目標が「防災部局と連携した検討の実施」となっており曖昧な表現となっている。もう少し具体的に進めていったほうがよいのでは。</p> <p>《回答》</p> <p>現在、本市の災害時のトイレの在り方について方針がまだ決まっておりませんが、非常に重要な課題として認識しております。そのため、防災部局、関連部局が集まり災害時のトイレの在り方から検討を進めているところです。現状では、公共施設の再整備に伴い防災拠点や避難所となる公共施設について、排水設備を耐震化したりマンホールトイレの設置など対応しております。</p> <p>(2) 施策6の避難施設等からの排水を受ける管路の耐震化とも関係していると思いますが、今の回答はそれも念頭にあるということか。令和5年度では3施設とのことですが、具体的にどのような場所をやるかとかという例を示していただけると分かりやすいと思います。マンホールトイレシステムが利用できるようになるか。</p> <p>《回答》</p> <p>令和5年度の3施設は、避難所となる第一中学校、藤嶺学園高等学校、鶴南小学校を予定しています。学校の建て替えなどタイミングを合わせて、管渠の耐震化を進めていく予定です。 鶴南小学校は、マンホールトイレシステムが利用可能になりますが、藤嶺学園と第一中学は、マンホールトイレの設置について議論がされておらず、今後トイレの在り方検討会で、どこにどのような仕組みで設置していくかなどを決めながら進めていく予定です。</p> <p>(3) 資料1の建設改良積立金について、令和7年度から3年間2億円ずつ積み立て合計6億円積む計画になっていますが、令和5年度予算額を見ると財源と</p>	

審議等の概要

なる純利益は、計画値7.5億円に対し2.7億円となっています。今後2億円ずつ積み上げることが難しくなってきたという認識でよいのか。

また、難しい予測が立った場合どのように積立てを確保していくのか。例えば補填財源としての減債積立金を減らしても2億円ずつ確保していくという考えなのか。

《回答》

今回、5年間の計画の初年度で利益の状況も計画値から下がる見込みになりましたが、現在の段階では令和6年度以降の計画値については現行どおりと見込んでおります。毎年、1年間の事業の結果、純利益の結果、また、財政シミュレーションを行い今後の状況を精査しながら事業を進めてまいります。

- (4) アセットマネジメント的に令和7年度から2億円ずつ積立てないと難しいと思っていたが、必ずしも2億円ずつ積立てをする必要はないということか。

《回答》

将来に向けて積立てていこうという取組を進めてまいります。できる限り利益の確保に努め積み立てていきたいと考えております。

- (5) 計画値に対して現実にどのように対応していくかが非常に大事なところだと思うので、よく検討していただきたい。

- (6) 資料3裏面で放流水質の適正維持について、放流水質の適正管理は水質管理でしょうか。水質分析や測定項目を教えてください。現在、PFAS（有機フッ素化合物）が非常に社会問題になりつつありますが水質の測定項目に入っているのでしょうか。

《回答》

水質検査は、現在規制されている項目がメインになっています。PFASについては現在は行っておりません。今後、そのように話題となっているものを今後研究するため、基本方針3施策8に新たな水環境リスクの実態調査という項目を挙げています。

- (7) 資料3施策2事業2で、点検と調査というのはどういう違いなのか。

《回答》

機器の老朽化の度合いが分かる状態監視ができる機器について設備の調査を行い老朽化の進展具合を測っております。ストックマネジメント計画時、今後老朽化が進む予測値を立てており、実際の老朽化を調査しています。毎年80点、10年間で計画的に実施していき、老朽化の度合を把握し維持管理に役立てるものです。令和5年度は120点の調査を予定しております。

- (8) 点検と調査が同じように思いますが、特定の機器に管理値を設けて、それがその管理値に合っているかどうかを調査するというのが調査ということでしょうか。

《回答》

点検は、毎日の日常点検等で機器の故障がないかという観点でやっているものです。健全度調査は、状態監視ができる機器の老朽化度合を調べるため詳しい調査を行っております。

- (9) 施策6事業8の浄化センターポンプ場の耐震化について、目標のポイント数とは何か。

《回答》

中期経営計画P27の下段に、米印で説明を記載しております。例えば耐震化は診断を行うことで0.2ポイント、設計を行うことで0.3ポイント、工事を行うことで0.5ポイントとし、それを全て行うことにより1施設1ポイントが付与されるという形になっています。処理場、ポンプ場等は全部で75施設あり、これを全て対策することで75点満点としております。

- (10) 次回以降、この見込みがどのように変わっていくか、また中期経営計画のどこを見れば施策の内容が分かるのか、という説明があると非常に参考になるため資料作成に工夫をしていただきたい。

<p>その他</p>	<p>1 令和5年度下水道PR事業について</p> <p>(12) 子供たちが学ぶ機会として、今、定期的に何か行われているのか。</p> <p>《回答》 小学校4年生で、施設見学、社会科見学（上水道やごみ処理施設など）をするプログラムを教育委員会で行っています。コロナにより大人数での施設見学ができませんでしたが、5月からはコロナが5類に変わることから逐次受け入れる方針です。</p> <p>(13) 市民の皆さんへのPRとして、オンラインで下水道施設をPRするなどの工夫も考えていただきたい。</p> <p>(14) 生涯学習出張講座とは子供向けなのか。説明時間はどのくらいなのか。</p> <p>《回答》 年齢に区切りはありません。時間（概ね1～2時間）、日程等ご相談により開催しています。</p> <p>2 今後の会議開催方法について（リモート） 引き続き、希望者はリモートで対応。</p>
------------	---